

(4) 東京新宿ベジフル株式会社 6月1日スタート

2社が統合、青果卸売業界第4位750億円規模に、物流効率化も目指す。

今年4月に施行された改正卸売市場法による卸会社の事業規制が緩和される中で、東京新宿副都心に近い東京都中央卸売市場淀橋市場(東京都新宿区北新宿4-2-1)の青果卸会社の東京新宿青果株式会社(04年度売上高 全国第12位)と東京淀橋青果株式会社(同 24位)2社が青果卸売業務部門の統合により、6月1日に新会社「東京新宿ベジフル株式会社」(愛称:ベジフル新宿、従業員359名)が設立される。卸売業務を行う営業部門を分離独立させる「親切分割」方式で、新宿青果と淀橋青果は親会社(持ち株会社)として管理部を残し、新会社の株式を保有する。年商は750億円規模となり、青果卸会社としては全国で第4位に急上昇する。首都圏では、東京青果、東京シティ青果に次いで3番目の大卸売会社の誕生となる。

かねてから卸統合は必須課題とされてきた淀橋市場だが、流通大型化の中で産地からの集荷力を強化し、仲卸や買参人へのサービス強化を図る狙いだ。今後、提案力と企画性のある、生産者や消費者の期待に十分応えられる卸売会社として、年商800億円を目指すこととしている。

売上高が高く集荷力と販売力のある大規模卸会社に農産物が集中し、地方の小規模の卸会社ほど売上げが落ち込んでいる傾向にある中、その傾向は一段と加速されそうな気配である。産地側は、少しでも高く販売してくれる卸売会社と取り引きし、仲卸や小売りは商品調達力や販売力の強い卸売会社を選んでおり、青果卸業界は大きな競争世界へと突入している。

今まで、山形県内のJAは2社に分かれて取引を行っていたが、統合により1社でほぼ全部のJAと取引が行われるようになり、これまで以上に、取引の強化や安定的な取引が行われ、産地にとっても有利になることが期待される。

会社のユニフォームの色は黄色の予定で、当分はイエローの農産物がラッキーカラーになるかもしれない。



新会社が誕生する淀橋市場

順位	会社名	億円
1	東京青果	1590
2	大果大阪青果	917
3	東京シティ青果	836
4	東京千住青果	702
5	東京多摩青果	694
6	東京荏原青果	689
7	横浜丸中青果	645
8	京都青果合同	613
9	福岡大同青果	577
10	東京豊島青果	545
12	東京新宿青果	479
24	東京淀橋青果	271

(04年度売上高 全国中央市場青果卸売協会)